

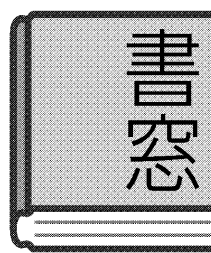
切り替えの大切さ学んだ『されどわれらが日々』

何が起きても乗り越える姿勢

約40年前の学生時代、勉強の息抜きに読書をするのが多かった。その中で衝撃を受けた本が2冊ある。

高校生の時は気になった本を買って読むことが楽しかった。高校3年生で読んだ『されどわれらが日々』（柴田翔著）もその一冊だ。学生運動が盛んだった昭和の時代に懸命に生きようとする姿にはある種の憧れを持った。

関わっていた女性を死に追い詰めてしまった。婚約者から別れを告げられたりなど、主人公は突然の出来事を多く経験する。主人公の心は一時は傷つくが、結局それを忘れて新天地で働き始



めた点に生命を感じた。人によっては冷たいと捉えるかもしれないが、予期せぬことが起きても切り替え、乗り越えていく姿勢は生きる上で重要だ。

東京大学工学部に在学中、1人暮らしをしていた時に読んだのが長編小説『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（村上春樹著）だ。「世界の終り」と「ハードボイルド・ワンダーランド」の二つの物語が各章交互に展開する。二つの世界は別々のものだと

思っていたが、読み進めると交錯して主人公の脳内の話だと分かる。初めて出合った構成に衝撃を受け、ページをめくる手が止まらなかった。この衝撃を超える本はいまだ余滴……

心の持ち方

佐藤博氏は経営書はあまり読まないという。読書を通じて理論ではなく、心の持ち方を学んでいるように見える。切り替えが大切という考えは

一見冷徹さも感じるが、社員の力を最大限発揮できるように職場環境の設計や社員の要望の反映に力を入れる。絶対や完全がないからこそ、理想に近づくため努力を続けている。（岡紗由美）



アセンド社長 佐藤 博氏